

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立南山城支援学校 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ・Ⅴ 】
2 実施対象者	A：小学部4～6年生（16名） B：小学部 14名、中学部16名、高等部17名 地域の団体（3チーム）9名 C：小学部4～6年生（16名）講師1名（京都ゴールボール協会）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ A：体育 C：体育 ） ② 行事名（ B：ポッチャMINAMI カップ2021 ）
4 目標 （ねらい）	A：「テニピン」と「テニス」におけるラケットの形やボールの違いに注目することができる。 ボールの動きに合わせてキャッチやドリブル、ラリーをすることができる。  B：取組を通して児童生徒が交流を深めることができる。 地域の方と交流し、本校の教育活動を知る機会とすることができる。  C：ゴールボールの特性（音の鳴るボールやアイシェード）がわかる。 アイマスクやアイシェードなどの目隠しを使って、聴覚や触覚を頼りに情報を掴もうとすることができる。
5 取組内容	A：「えがおきらきらオリンピック～MINAMI オープン～」 （1）実施日 4月15日～6月17日 （2）内容 ① 4月15日 ア オリエンテーション イ 種目紹介ビデオ・テニピンによるテニスの導入 ② 4月22日～6月17日 ア ラケットワーク（キープ、バウンドなど） イ 的あて ウ ラリー



### B:「ボッチャMINAMIカップ2021」

- (1) 実施日 <予選>8月30日(月)～9月30日(木)  
<本選>10月6日(水)

招へい 京都ボッチャ協会、精華町役場、キチキチ(こどもアトリエくりむ)

#### (2) 内容

- ① 8月30日～9月30日

期間中、各学部でボッチャ体験や本選出場に向けてトーナメント方式の予選を実施し、3チームを選抜した。

- ② 10月6日(水)

各学部の予選で選抜された9チーム・教職員1チーム・地域団体3チームの計13チームで試合を行った。



### C:「えがおきらきらオリンピック～めざせ!えがおきらきらオリンピックアン～」

- (1) 実施日10月7日～11月18日

#### (2) 内容

- ① 10月7日～11月4日

ア オリエンテーション

イ ゴールボール練習（アイマスクをつけて綱渡りやボーリング、キャッチボール）



- ② 11月11日「ゴールボール体験」  
講師来校：鎌田 孝幸コーチ（京都ゴールボール協会）  
ア キャッチボール  
イ ゴールボール試合  
ウ パラリンピックの話、質疑応答



- ③ 11月18日 まとめ  
ア ゴールボール試合  
イ コーチからの質問回答、まとめアンケート

6 主な成果

- A: 自分のラケットを持つことで、道具を大切にしようという気持ちや、けがをしないためにルールを守ろうという姿が見られた。  
ラケットワークを取り入れることで、活動量が増えるとともに、ボールを見る力や合わせて動く力など巧緻性の高まりがみられた。
- B: ポッチャを経験したことのない児童生徒も取り組みを通して体験することができた。  
障害の有無や年齢等に関係なく、誰とでも一緒に取り組めるポッチャを通して、他学部の児童生徒や地域の方とつながる取組になった。
- C: 今年はオリンピック、パラリンピックが開催されたこともあり、講師の方の体験談や写真、動画など現場でしか感じ取ることができない内容を児童に見せることができた。  
まとめのアンケートでは、はじめはスポーツに関心の少なかった児童も、最後は「楽しかった」「またやりたい」など興味関心が高まる様子が見られた。

<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>A：ボールを使った遊びの中で、未経験でもラケットを使ってボールを扱うことができるように、手のひらで感覚を扱える段ボールラケットを活用した。また、ボールの素材を変えることで段階的に力加減や弾み方を調整するようにした。</p> <p>B：ポッチャはこれまでも大会を行ったり、地域の学校との交流の取組としても行ったりしてきたが、今年は学校行事の一環として全学部の児童生徒や本校と日頃から連携している地域の団体と一緒に、「ポッチャ大会」を実施した。 新型コロナウイルス感染症対策として、予選は各学部単位で実施し、本選も該当クラスや団体のみでの小規模で実施した。</p> <p>C：興味関心が高まりやすいように、スポーツ紹介や試合の動画を授業の最初に取り入れた。 アイマスクをつけての活動に不安を感じないように、ゴールボールの特性を活かした遊びを取り入れた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>A：テニスの導入としてテニピン遊びを展開したが、ボール遊びに慣れてない児童が多く、ボールの動きに合わせた体の動かし方や、目で追いかけることに慣れるのに時間がかかった。</p> <p>B：校内のポッチャのセット所有数が限られていたため、学部ごとに使いまわしを調整する必要がある。また、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、参観者の制限を行った。全校で取組を実施・共有するという視点で、中継をするなどの工夫を行っていく。</p> <p>C：興味関心が高まったことでイメージが先行し、自分の技能に見合わない投げ方や、向きを確認せず投げるなどの危険な行動が見られたため、ボールを投げるときは指導者が必ずつくなど安全面に対する支援が必要である。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>(1) ポッチャ 今年度、初めて全学部の児童生徒とポッチャ協会と地域の方も交えてポッチャ MINAMI カップ 2021 を行った。来年度は事前に指導者や地域の方に向けてポッチャ研修会を行ったり、縦割りでのポッチャ交流を行ったりして他学部、地域とよりつながる機会を設定していきたい。</p> <p>(2) オリンピック・パラリンピックの種目をやってみよう。 昨年度に引き続きゴールボールに取り組み、小学部だけでなく他学部にも興味関心が広がった。今年度新たにテニスにも取り組んだので、来年度以降も様々なスポーツを紹介、触れる機会を設定したり、授業の中で行ったりしていく。</p>